

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	肝細胞癌に対する全身化学療法の有効性と安全性に関する後ろ向き観察研究
	研究目的	進行肝細胞癌に対する化学療法の選択肢は増えつつあるが、治療戦略が多様化し、薬剤の適切な使い分けが大きな関心事となっている。本邦で保険適用されている薬剤としては、1次治療としてソラフェニブ、レンバチニブ、ソラフェニブ不応例に対する2次治療としてレゴラフェニブ、ラムシルマブの有効性がこれまで示されている。実臨床では4剤をいかに使いこなすかが課題となっているが、エビデンスが示されていない治療も行われているのが現状である。本研究では進行肝細胞癌患者に対する化学療法患者を後ろ向きに観察することで、生存期間の延長に寄与する因子や、抗腫瘍薬の選択に際して、最も予後を向上するための治療選択を探索することを目的として、本研究を立案した。
	研究対象者	臨床的に肝細胞癌であることが確認されており、2012年1月から2020年3月までに、全身化学療法を開始された症例
	研究期間	西暦 2020年5月25日～西暦 2027年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	森本学
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器内科肝胆膵
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	横浜市立大学附属市民総合医療センター：沼田 和司、中馬 誠 北里大学：日高 央 聖マリアンナ医科大学：渡邊 綱正 東海大学：加川 建弘